

十七文字の抒情詩

新しい年を迎え、あっという間に一カ月が過ぎました。暦の上では春なのでしょうが、やはりまだまだ寒いですね。俳句も、新年から初春へと季語も移り変わります。今回のうさおさん、健さんの句は春近しでしょうか・・・

まずはうさおさんの句です。

春を待つ樹に光背のシルエツト

良いですね、春を待つ木々には後光が・・・
そんな感じでしょうか。

豪雪の記事読む部屋の暖かさ

本当にそうですね、部屋は暖かいのに、ニュースで大雪を伝えている。

ただ、豪雪↓冬 暖かさ↓春 と季語が重なります。「豪雪の記事」、「部屋が暖かい」となるとどちらも季語とみなされない場合もあります。

暖房は冬の季語ですから、これを使つてはいかがでしょうか。

うたた寝しトイレに立ち辛し床寒し

良く分かるのですが・・・やっぱりトイレと言ってしまわない方が良いかな。

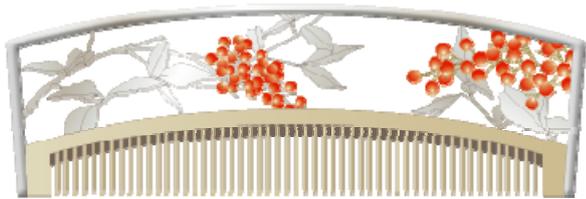
*うたた寝の覚めてなほ増す寒さかな

続いて健さんの句です。

赤き灯のゆつくりよぎる冬銀河

始めは「機体の灯ゆつくりよぎる冬銀河」だったとか・・・
こちらの方が状況がすぐにわかるような気もしますが、赤き灯とされた事でより想像が広がります。





暮早し袋に残る飲み薬

駅伝の襷に聳ゆ二日富士

初晴れや東に筑波西に富士

オリオンの矩形いびつに寒波来る

良い句ですね。季語との兼ね合いもとても良いと思います。

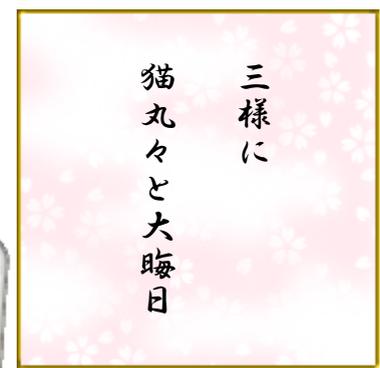
情景が浮かびます。二日富士が良いですね・・・写生句としても見事です。

新しい年の、それも美しく晴れ上がった日に見える東西の山。
美しい自然への思いが感じられます。

短形いびつにと言うのはすごい！うん・・・参りました。
良い句になっていますね。

うさおさんも健さんも良い句を詠まれるようになりましたね。添削する必要もないほどです。
私と言えば、相変わらずの不調・・・お二人に喝を入れていただいて、負けないようにがんばらなくてはとつくづく感じています。

三様に
猫丸々と大晦日



ダイジェストで
観る大歌舞伎
二日かな ゆうこ

